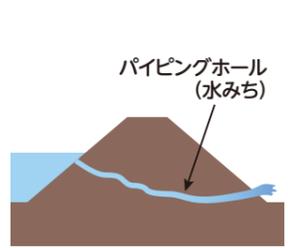


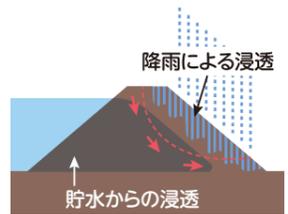
ため池被災のメカニズム

豪雨によるため池の被災



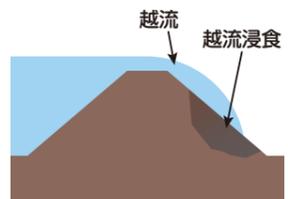
浸透破壊

堤体内部が劣化して、水を遮る機能が低下し、貯水位が上昇した時に堤体中の水圧も上昇して強度が低下し、破壊する場合があります。また堤体内に上流から下流に向かう水みちが発生し、破壊する場合があります。



すべり破壊

貯留した水と降雨が堤体の中に浸透して、堤体内部の水分量が増加し、堤体の法面の強度が低下することによって、法面ですべりが発生し破壊する場合があります。



越流破壊

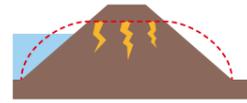
豪雨により、貯水位が急激に上昇し、堤体を越えて流れ出し、下流斜面を流下することによって、破壊する場合があります。また、貯水位の上昇により、堤体内の水圧も上昇し、強度が低下して破壊する場合があります。

地震によるため池の被災



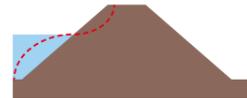
クラック

堤体の頂部などにクラック（亀裂）が発生する場合があります。堤体の上下流方向に生じるクラック（亀裂）は水みちとなることがあり、特に注意が必要である。



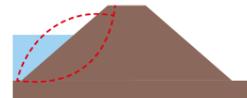
沈下

堤体の形状をほぼ保ち、クラック（亀裂）などを伴いながら堤体が沈下する場合があります。多くは軟らかい地盤で発生している。



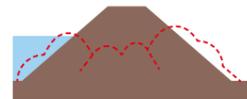
斜面崩壊

堤体法面の上部が沈下し、下部がはらんで変形が生じる場合があります。



斜面すべり

地震動により堤体の法面にすべりが発生する場合があります。



崩壊

堤体や地盤が大きく変化し、崩壊する場合があります。決壊に至ることが多く、堤体や基礎地盤の液状化によるものと考えられる。

平成25年ため池ハザードマップ作成の手引きより引用

浸水深と流速の関係

集中豪雨や長雨が発生すると、土砂災害や内水はん濫、河川はん濫と複合した災害が発生する可能性があります。テレビやラジオなど、災害が予測される場合は、早めに避難行動をとるように心がけましょう。なお、避難行動に後れが生じた場合は、無理な避難を行わず、身の安全確保に心がけましょう。

浸水深	浸水の目安	流速との関係
3.0m以上	2階の床下まで浸水する程度	避難不可能
1.0m以上～3.0m未満		
0.5m以上～1.0m未満	大人の腰までつかる程度	流速が0.5m/秒を超えると避難不可能
0.3m以上～0.5m未満	大人の膝までつかる程度	流速が1.5m/秒を超えると避難不可能
0.3m未満		

災害情報

防災気象情報の伝達経路

町では、災害発生のおそれのある時や、災害の発生が確かな時は『災害発生本部』を設置し、対応します。また、災害の危険が高まり、避難が必要となる場合には、避難情報を発表します。内容と周囲の状況に注意して行動しましょう。



携帯電話・スマートフォン向け防災情報メールサービス

登録いただいた携帯電話やパソコンへ防災などの情報をメール配信します。



福岡県防災メール「まもるくん」(事前登録が必要です)

- 右記の二次元コードを読み取り、URLにアクセスします。
- 「登録」をクリックし、内容を確認したら完了です。



小竹町LINE公式アカウント

- LINEのホーム画面右上にある「友だち追加」を選択します。
- 右記の二次元コードを読み取り、表示された「追加」を選択します。



災害用伝言ダイヤル

災害発生時は、家族や知人と連絡が取れなくなることがあります。事前に話し合い、連絡方法を確認しておきましょう。



NTTdocomo

https://www.nttdocomo.co.jp/info/disaster/disaster_board/index.html

NTT西日本

<https://www.ntt-west.co.jp/dengon/web171/>



SoftBank

<https://www.softbank.jp/mobile/service/dengon/>

au

<https://www.au.com/mobile/anti-disaster/saigai-dengon/>



Y!mobile

<https://www.ymobile.jp/service/dengon/>

家の被害状況を写真で記録しましょう

片付けや修理の前に、家の被害状況を写真に撮って保存しておきましょう。

市町村から罹災証明書を取得して支援を受ける際や、保険会社に損害保険を請求する際などに、たいへん役に立ちます。

ポイントは、家の外と中の写真を撮ることです。

家の外の写真の撮り方

- カメラ・スマホなどでなるべく4方向から撮影しましょう。
- 浸水した場合は、浸水の深さがわかるように撮影しましょう。
- ※メジャーなどをあてて「引き」と「寄り」の写真を撮ると、被害の大きさが良くわかります。

家の中の写真の撮り方

- 被災した部屋ごとの全景写真を撮影しましょう。
- 被害箇所の「寄り」の写真を撮影しましょう。
- <想定される撮影箇所>
内壁、床、窓、出入口、サッシ、襖、障子、システムキッチン、洗面台、便器、ユニットバスなど